

2026年キリスト教一致祈祷週間

1月18日-25日



提供：Getty Images

There is one body and one Spirit,
just as you were called
to the one hope of your calling
(Ephesians 4:4)

からだは一つ、靈は一つです。
それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと
招かれているのと同じです
(エフェソ 4・4)

日本キリスト教協議会
カトリック中央協議会

この小冊子は、世界教会協議会（WCC）と、教皇庁キリスト教一致推進省が共同発行した資料をもとに作られました。年間を通じて、合同の集会などでご利用ください。

聖書本文の引用は、『聖書 新共同訳』（日本聖書協会、2000年）を使用しています。

目 次

キリスト教一致祈祷週間を準備する皆さんへ.....	2
2026年キリスト教一致祈祷週間の資料の準備	4
アルメニア使徒教会に関する神学的考察.....	6
2026年の聖書テキスト	9
2026年のテーマの解説	10
エキュメニカル礼拝.....	15
はじめに.....	15
礼拝式文.....	17
付録.....	33
八日間の默想と祈り.....	36
過去30年におけるアルメニアのエキュメニズムの状況	52
キリスト教一致祈祷週間のテーマ一覧 (1968－2026年)	55
キリスト教一致祈祷週間に於ける歴史上の重要な年.....	58

キリスト教一致祈祷週間を準備する皆さんへ

一致を求めて——年間を通じて

キリスト教一致祈祷週間は、北半球では、伝統的に1月18日から25日に行われます。この日程は、1908年にポール・ワトソンによって提案されたもので、当時祝われていた聖ペトロの祝日と聖パウロの祝日の間の期間であり、日付そのものに象徴的な意味があります。しかし、南半球では、1月は休暇の季節なので、他の日程、たとえばペンテコステ（聖靈降臨の主日）前後に変更する地方もあります（1926年に信仰職制運動により提案された日程）。この日付も、教会の一致のために象徴的で意義深いものです。

日程については柔軟に対応できることにご留意ください。諸教派間ですでに実現している交わりの状況を伝え、キリストのみ心である完全な一致を求めてともに祈るために、この資料が年間を通じて用いられるよう願っています。

各地の状況に合わせてテキストを用いる

この資料は、可能な場合はいつでも、各地域の状況に合わせて適用できるように作成されています。その場合、各地の典礼や礼拝の様式、社会的・文化的背景全体が考慮されなければなりません。そのような適用は、理想としては、エキュメニカルなかたちで行われるべきです。いくつかの地域ではすでに、この資料を適用するためのエキュメニカルな体制が整っていますが、そうでない地域では、適用の必要性がきっかけとなって、そうした体制が築かれるよう願っています。

キリスト教一致祈祷週間資料の用い方

- * 教会やキリスト教共同体の団体が、協力して一回の合同礼拝を行う場合には、「エキュメニカル礼拝式文」をそのまま使うことができます。
- * 教会やキリスト教共同体の団体は、固有の礼拝にこの資料を組み入れて用いることができます。たとえば、「エキュメニカル礼拝式文」や「八日間

の默想と祈り」、その他の祈りを、それぞれの状況に応じて用いることができます。

- * 一週間を通して一致祈祷週間の礼拝を毎日さきげる共同体は、その礼拝の資料として「八日間の默想と祈り」を使うことができます。
- * キリスト教一致祈祷週間のテーマに関する聖書研究を行いたい場合には、「八日間の默想と祈り」に提示されている聖句や説明を基礎資料として使うことができます。また、日々のディスカッションは、共同祈願で締めくくることができます。
- * 一人で祈りたい人も、自分の祈りの意向に集中するためにこの資料を役立てるすることができます。そうすれば、自分たちが、キリストの教会を目に見えるかたちでさらに一致させるために祈っている世界中の人々との交わりの内にあることを、忘れずにいられるでしょう。

2026年キリスト教一致祈祷週間の資料の準備

教皇庁キリスト教一致推進省（DPCU）と世界教会協議会（WCC）の信仰と職制委員会が共同で任命した国際チームは、2026年の「キリスト教一致祈祷週間」の資料を検討し、最終決定するため、2024年10月13日から18日にかけてアルメニアの聖エチミアジン総主教庁（Mother See of Holy Etchmiadzin）で会合を行いました。

本資料の草案作成は、WCCとDPCUによってアルメニア使徒教会の諸教会関係部門に委託されました。同部門は、最初の草案を作成したアルメニアのキリスト者によるエキュメニカル・グループの調整役を担いました。エチミアジンでの会合において、このグループの代表者が国際チームと協力し、最終版の文書を完成させました。この会合の議長は、ジュネーブの世界教会協議会のミキー・ロバーツ牧師と、ローマの教皇庁キリスト教一致推進省のマーティン・ブラウン神父（ベネディクト修道会）が共同で務めました。2024年10月17日に一行は、全アルメニアのカトリコス（総主教）カレキン二世猊下の謁見を受けました。

国際チーム成員

Revd Fr Martin Browne OSB	Dicastery for Promoting Christian Unity (Rome)
Revd Fr Miguel Desjardins CCN	Bishops' Conference of France (Paris)
Sr Leticia Candelario Lopez FMVD	Verbum Dei Missionary Fraternity (Singapore)
Revd Fr James Puglisi SA	Franciscan Friars of the Atonement (Graymoor, New York)
Revd Dr Brigitte Rabariaona	United Bible Societies (Nairobi)
Revd Dr Mikie Roberts	World Council of Churches (Geneva)
Pastor Dr Jochen Wagner	Association of Christian Churches of Germany (Frankfurt)

アルメニア起草グループ成員

Senior Archimandrite Shahe Ananyan	Gevorkian Theological Seminary (Etchmiadzin)
Fr Komitas Daveyan	Ordinariate of the Armenian Catholic Church (Yerevan)
His Grace Bishop Daniel Findikyan	Gevorkian Theological Seminary (Etchmiadzin)
Archimandrite Garegin Hambardzumyan	Inter Church Relations' Department (Etchmiadzin)
His Grace Bishop Vahan Hovhanessian	Garegin I Educational Center (Etchmiadzin)
Deacon Edvard Keshishyan	Inter Church Relations' Department (Etchmiadzin)
Pastor Avetik Khachatryan	Armenian Evangelical Church (Yerevan)
Revd Fr Husik Smbatyan	Gevorkian Theological Seminary (Etchmiadzin)
Prof. Diana Tsaghikyan	Yerevan State University (Yerevan)

アルメニア使徒教会に関する神学的考察

序

アルメニア使徒教会は、世界でもっとも古いキリスト教共同体の一つとして認識され、2000年近くにわたりアルメニア民族の靈的・歴史的アイデンティティの形成に決定的な役割を果たしてきました。4世紀初頭に設立され、使徒時代にその起源をもつこの歴史ある教会は、単なる宗教組織にとどまらず、国としての強靭さ、文化的遺産、不屈の精神を体现しています。人々を靈的に導くだけでなく、苦難や外国支配の時代にあっても、アルメニアの伝統や言語、価値観を守り続けてきました。現代における、ナゴルノ・カラバフ紛争やアルツアフ住民の難民化といった困難にあっても、教会はアルメニア人にとって力と慰めの源であり続けています。今日、アルメニア使徒教会は全世界のアルメニア人にとって信仰、一致、継続性の道しるべであり、より広い世界のキリスト教共同体にも共鳴する洞察を与えています。

歴史的基盤

アルメニア使徒教会の起源は、紀元1世紀にアルメニアで福音をのべ伝えた使徒タダイとバルトロマイの教えに深く根ざしています。なかでもアルメニア初代カトリコス（総主教）である啓蒙者聖グレゴリオの導きのもとでキリスト教は大きく発展しました。301年には、ティリダテス三世王のもとでアルメニアが世界で最初にキリスト教を国教として採用し、この出来事は、ローマ帝国のキリスト教受容よりはるか以前から、アルメニアを、信仰の先駆者として際立たせています。

首都エレバン近郊にある聖エチミアジン総主教庁は、教会の靈的・行政的な中心です。聖伝によれば、聖グレゴリオは天から降臨したキリストが金のかなづちで地面を打つ幻を見て、この場所に最初の司教座聖堂を建てるよう示されたと伝えられています。この幻に基づき建立された「聖エチミアジン大聖堂」は、世界最古の教会の一つであり、アルメニア教会とその信者たちの不变のきずなの象徴となっています。何世紀にもわたり、同総主教庁は靈性と教会権威の中心として、信者たちを導き、アルメニアのキリスト者の遺産を守り続けています。

独自の伝統と文化的アイデンティティ

アルメニア使徒教会は、東方諸教会（Oriental Orthodox）に属し、独自の神学と典礼を保持しています。古代のキリスト教伝統とアルメニア文化が融合したその儀式には、深い畏敬の念と靈的な深みが映し出されています。奉神礼は古典アルメニア語で執行され、何世紀も前から続く聖歌、香、華麗な祭服が用いられ、信者たちを初代教会へといざなう雰囲気を生み出しています。

アルメニア使徒教会は最初の3回の公会議の教えに基づき、三位一体、そしてキリストの完全な神性と人性という使徒継承の教義を保持し、東方諸教会との交わりを保っています。キリストが苦しみを受け、十字架につけられ、三日目に復活し、天に挙げられたことを確信し、生者と死者を裁くために栄光のうちに再臨することを待ち望みます。このキリスト論理解は、アルメニア使徒教会の神学的議論に深く影響を与えており、歴史を通じてそのエキュメニカルな関係性を形づくってきました。洗礼の秘跡を通して、アルメニアの人々はキリストのうちに新たに生まれ、聖体の秘跡と感謝の祭儀を通して神のいのちにあずかります。アルメニア使徒教会は、預言者や使徒に靈感を与え、信じる者たちを今も励まし、一、聖、公、使徒継承の教会を導き続ける聖靈を告白します。教会は、唯一の洗礼を施し、死者の復活、永遠の審判、そして天のみ国における永遠のいのちの約束を告げ知らせます。

アルメニア使徒教会はその靈的使命を超えて、アルメニア文化の発展の道具となっていました。アルメニア文字の創製や、聖書のアルメニア語への翻訳という画期的な事業を含む、文学や芸術の繁栄に中心的役割を果たしました。アラブ、モンゴル、ペルシャ、オスマン帝国などによる支配の時代を通じて、教会はアルメニアの言語、文学、芸術の守護者としての役割を担ってきました。修道院は学問と文化の拠点となり、写本を保存して、アルメニアのキリスト教アイデンティティを体現する宗教芸術をはぐくんできました。ソビエトの無神論政策のもとでも、教会は目立つことはなくとも確固たる存在感を保ち、アルメニア人の靈的・文化的必要を支え続けました。

アルメニア人の生活における教会の役割

波乱に満ちたアルメニアの歴史を通じて、アルメニア使徒教会は人々が生き延び耐え抜くうえで不可欠な存在であり続けました。迫害、強制移住、大量虐殺といった困難の中でも、教会は一貫性と安定性を提供してきました。とくに1915年のアルメニア人集団殺害の際には、教会は苦しむ人々の避難所となり、慰めを与え、よりよい未来への希望を守り続けました。教会はこの悲劇の犠牲者を毎年追悼し、殉教者の記憶をたたえ、歴史的認識と正義の実現を訴えています。

現代のアルメニアにおいても、使徒教会は国民生活に大きな影響力を持ち続けています。1991年のソビエト連邦の崩壊後、アルメニアでは宗教が復興し、アルメニア使徒教会は社会における中心的な役割を再び取り戻しました。今日では、社会活動、教育、慈善事業に積極的にかかわり、貧困問題、医療、教育に取り組んでいます。また、ディアスポラ（国外に住む）アルメニア人共同体を支援し、一致をはぐくみ、世界中のアルメニア人の間で伝統と信仰が生き生きと保たれるよう努めています。

エキュメニカルな関係とグローバルな連携

アルメニア使徒教会は、豊かなエキュメニズムの伝統を有し、他のキリスト教共同体との架け橋を築くことに努めてきました。近年では、ローマ・カトリック教会、東方正教会、プロテstant諸教会を含むさまざまな教派との対話に取り組み、独自の遺産を大切にしながら共通の基盤を模索してきました。世界教会協議会（WCC）への参加や、バチカンおよび他の教会諸団体との関係は、キリスト教一致と相互理解への取り組みを例示するものです。

使徒教会の対話への取り組みはキリスト教内部にとどまらず、イスラームなど他の宗教との宗教間対話にも広がっています。これらの対話は、とりわけ多様な宗教と歴史的緊張を抱える地域において、平和と相互理解の促進に寄与してきました。この精神に基づきアルメニアの教会は、宗教的寛容、環境保全、社会正義に関する世界的な議論にも貢献しており、複雑な世界の中で「愛」「思いやり」「尊重」といった価値への献身を反映させています。

2026年の聖書テキスト

エフェソの信徒への手紙（4・1－13）

そこで、主に結ばれて囚人となっているわたしはあなたがたに勧めます。神から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩み、一切高ぶることなく、柔軟で、寛容の心をもちなさい。愛をもって互いに忍耐し、平和のきずなで結ばれて、靈による一致を保つように努めなさい。からだは一つ、靈は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです。主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ、すべてのものの父である神は唯一であって、すべてのもの上にあり、すべてのものを通して働き、すべてのもののうちにおられます。

しかし、わたしたち一人ひとりに、キリストのたまもののはかりにしたがつて、恵みが与えられています。そこで、

「高い所に昇るとき、捕らわれ人を連れて行き、
人々にたまものを分け与えられた」
と言われています。

「昇った」というのですから、低い所、地上に降りておられたのではないでしょうか。この降りて来られたかたが、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりも更に高く昇られたのです。そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師とされたのです。こうして、聖なる者たちは奉仕のわざに適した者とされ、キリストのからだを造り上げてゆき、ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。

2026年のテーマの解説

「からだは一つ、靈は一つです。

それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです」

(エフェソ4・4)

今年のキリスト教一致祈祷週間のための祈りと黙想は、アルメニア使徒教会のキリスト者たちが、アルメニア・カトリック教会および福音派諸教会の兄弟姉妹とともに準備しました。これらの資料は、アルメニア使徒教会の歴史において、靈的、行政的本部である聖エチミアジン総主教府において、2024年9月28日 - 29日、ムロン（聖なる油）が祝福され、母なる大聖堂が再び献堂されるという感動的な日に作成、執筆、検討されました。この献堂は、10年以上にわたる大規模な修復工事を経てのものでした。この記念式典はアルメニアの人々および資料起草グループの成員にとって、今日もなお生きて実を結んでいる共通のキリスト教信仰を想起し、ともに祝う特別な機会となりました。これらの資料は、アルメニアの人々が用いてきた、何世紀にもわたる祈りと嘆願の伝統、そして4世紀にまでさかのぼるものも含むアルメニアの古い修道院や教会で生まれた聖歌に基づいています。2026年のキリスト教一致祈祷週間は、こうした共通のキリスト教遺産に立ち返り、キリストにある交わりをより深く追求するよう招きます。この交わりこそが、世界中のキリスト者を一つに結びつけるのです。

一致は、単なる理想ではなく、わたしたちキリスト者のアイデンティティの核心にある神からの命令です。それは、教会の召命の本質を表すもので、多様性の中でキリストにおける調和ある一体性を反映する召命に他なりません。この神的一致は、わたしたちの宣教の中心であり、イエス・キリストの深い愛によって支えられています。イエスはわたしたちの前に、ただ一つの目的を掲げています。使徒パウロがエフェソの信徒への手紙の中で語っているとおりです。「からだは一つ、靈は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです」(エフェソ4・4)。今年選ばれたこの聖書箇所は、キリスト教の一致がもつ神学的な深みを要約しています。

聖書全体を通して、神の一致への呼びかけはその初めのときから響いています。旧約聖書においては、アブラム（後のアブラハム）がロトに語りかけた願

いは、信者の間に平和と調和を求める神の望みを強調しています。「わたしたちは親類どうしだ。わたしとあなたの間ではもちろん、お互いの羊飼いの間でも争うのはやめよう」（創世記13・8）。たとえ最終的には別々の道を歩むことになったとしても、アブラムが調和と相互尊重を呼びかけたことは、平和に生きることの大切さを強調しています。この神の教えはレビ記19章18節にも引き継がれています。「復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である」。このような戒めによってわたしたちは、信仰共同体における一致を保つためには、ゆるしと愛が不可欠であることを思い起こします。

詩編は、神の民の一一致の美を祝し、こう宣言します。「見よ、兄弟がともに座っている。なんという恵み、なんという喜び」（詩編133・1）。こうしたイメージは、神がその民のために計画する一致の重要性を強く示しています。一方、箴言は、神の民の争いに対して警告し、神は兄弟姉妹の間にいさかいを起こす者を憎むと述べ（箴言6・19参照）、調和を保つためには、忍耐とゆるしが必須である（箴言19・11参照）と教えています。

新約聖書において、イエス・キリストは一致という概念を靈的な次元へと高め、ご自身と御父との深い関係をそこに反映しています。イエスの弟子たちの一一致とは、単に争いがないというだけではなく、三位一体の神の一一致を映し出す、深い靈的なきずなです。ヨハネによる福音書17章21節のイエスの祈りは、父と子とが一つであるように、信者たちが一つとなることを求め、わたしたちの一一致がキリストとの関係、そして福音を伝えるという共同の使命に根ざしていることを示しています。イエスがわたしたちを愛したように、互いに愛し合いなさい（ヨハネ13・34－35参照）というイエスの根本的な命令は、この愛こそがわたしたちの一一致の本質であることをあらためて示しています。この犠牲的で自己を顧みない愛は、わたしたちの共同体を結びつけるきずなであり、同時にわたしたちがキリストの弟子であることのもっとも重要なあかしです。わたしたちの一一致が世のあかしとなるように（ヨハネ17・23参照）というイエスの祈りは、主の使命に対する永遠の契約です。

使徒たちもその教えの中でこのテーマを繰り返し語っています。パウロの書簡は、教会内の一一致の大切さを強調し、わたしたちが自らの召命にふさわしく、謙遜、柔軟、忍耐、そして愛をもって生きるよう勧めています（エフェソ4・1－3参照）。また、ローマの信徒への手紙12章6節におけるパウロの一一致のビジョ

ンは、キリストのからだを築き上げるための多様なたまものを示しています。コリントの信徒への手紙二 13 章 11 節とフィリピの信徒への手紙 2 章 1－2 節における、調和のとれた関係を求めるパウロの訴えにより、信者たちは、キリストへの献身において心を一つにし、靈を一つにするよう招かれます。こうしてわたしたちの多様性を認めつつ、一致を目指す神の命令が強められるのです。

エフェソの信徒への手紙 4 章 4 節は、一致に関するパウロの教えを要約し、ここでも、キリストの弟子たちが「一つのからだ、一つの靈」を体現し、一つの希望のうちに結ばれていることが強調されています。この比喩は、教会が地理、国籍、民族、伝統といった壁を越えて一つに結ばれた存在であることを意味します。パウロは、教会をキリストのからだとする比喩を用いて、多様な成員の中にある一致を表現しています。彼はコリントの信徒たちにこう書いています。「からだは一つでも、多くの部分から成り、からだのすべての部分の数は多くても、からだは一つであるように、キリストの場合も同様である」(一コリント 12・12)。さらにコロサイの信徒への手紙では、パウロは多様な成員からなる一つのからだの頭であるキリストの役割について詳述し、「御子はそのからだである教会の頭」(コロサイ 1・18)であると述べています。このように、教会は多くの部分から成り立っているにもかかわらず、まとまりのある一つの全体として機能しています。各成員は固有の役割を担い、教会の全体的な生活と使命に貢献しています。わたしたちが、キリストにあって一つの普遍的ながらだの一部であると認識することは、福音を広め、人類に仕えるうえで、世界的な協力を促し、内部での分裂ではなく、共通の使命へと焦点を移します。逆に、世に行って、すべての民を弟子にしなさい（マタイ 28・19 参照）という主の大宣教命令を、民族的、地理的、社会経済的な境界によって定義される共同体に限定してしまうことは、その共同体から主ご自身によって据えられた教会の本質的な土台の一つ——すなわち、全世界におけるキリストの弟子たちの一致——を奪うことになってしまいます。

エフェソの信徒への手紙 4 章 4 節に見られる「一つのからだ」という概念もまた、教会の本質を表しています。キリスト教は文化と国の境を超え、信仰と希望によって世界の信者を一つに結びつけます。ヨハネの黙示録 7 章 9 節に描かれているように、あらゆる文化、部族、民族、言語が代表されるこの交わりは、信者たちに力と励ましを与え、キリストのからだのうちにある互いのつながりを確かなものとするのです。

キリスト者の一致の重要性を強調しながら、パウロは「一つの靈」と付け加え、交わりを支え、教会がその使命を果たす力を与える聖靈に言及しています。聖靈は、信じる者たちの靈的生活の源、信者たちの導き手であり、教会の多様な成員が信仰と目的においてともに歩むことを保証します。

靈は、信者たちの間に深く靈的なつながりをはぐくみ、違いを超えて、三位一体の神の一致を反映するきずなを築き上げます。この共有された靈的きずなこそが、和解の土台となり、世界中の信者たちを導いて効果的なあかしと奉仕職のために彼らを準備させるのです。このような世界規模の導きは、多様な信仰表現が教会の中心的使命と調和することに役立ちます。

教会の一一致に関する教えは、エフェソの信徒への手紙4章4節において使徒パウロが、すべてのキリスト者が救いと永遠のいのちという「一つの希望」へと招かれていると語ることでさらに展開され、この「一つの希望」とは、すべての信者が同じ目標、すなわちキリストとともに生きる永遠のいのちを目指して奮闘することを意味します。これこそが、キリスト者が生きる究極の目標であり動機となり、すべての信者に共通のビジョンと目的を与え、信仰の旅路と日々の生活において彼らを一つにします。この共有されたビジョンは、教派や文化の違いに橋を架け、あらゆるかたちでの協力を促します。「共有された希望」をキリスト者の召命の目的とすることによって、わたしたちが教会の一員であることは、救いと永遠のいのちへの希望における世界的な交わりの観点から定義されるのです。

キリスト教信仰の伝統や表現が多様で、しばしば分断されている世界にあって、エフェソの信徒への手紙4章4節は、すべての信者がキリストの「一つのからだ」の一部であることを思い起こさせます。この一致は、画一的なものではなく、キリスト教信仰の核心的真理に対する共通の献身です。さまざまな異なる背景をもつキリスト者が、真摯に誠実に共通の目標とビジョンをもってともに集うとき、それは聖靈の変革する力に対する力強いあかしとなります。

アルメニア使徒教会は、その実践と教えを通して、単なる概念としてではなく、生きた、息づく現実としてキリストの普遍的なからだにおける一致の本質についての深い考察をわたしたちに提示しています。信者たちは信仰宣言においての、「一、聖、公、使徒継承の教会」への信仰を告白し、この一致が自らの靈的生活の中心であることを表明します。この一致への献身は、教会の感謝の祭儀（エウカリスティア）においてもっとも十全に表現されます。そこで

共同体の祈りは、世界中のキリスト者やその靈的指導者たちのためだけでなく、教会そのものの一致のためにもささげられます。毎日曜の典礼において、信者たちは互いに抱擁を交わし、「教会は一つとなった」と歌います。これは彼らの共同の信仰と共有された目的の具体的表れです。豊かでかつ多くの殉教者を生み出したアルメニア教会とその指導者たちの歴史は、アルメニアとその周辺地域においてキリスト教信仰を守り続けてきた搖るぎない努力と忍耐を雄弁に物語っています。教会内の一致は、教義上の主張を超えたものであるべきです。それは、彼らの靈的アイデンティティを深め、共同のあかしを強める生きた体験です。この一致を受け入れ、実践することによって、アルメニア使徒教会はその聖なる伝統を尊ぶだけでなく、キリストの普遍教会のより広い一致にも意義深い貢献を果たしています。このように考察することで、わたしたちは自らの信仰共同体においても、より広い教会においても、一致のもつ変革の力を認識し、大切にするよう導かれます。

靈的成熟とは、教義的な正確さを追求するのと同じ熱意をもって、一致を追い求めつつ、互いの違いを受け入れることです。わたしたちの強みは、一致を通してキリストを映し出し、その愛と恵みを世に示すことができる点にあります。この神の召命を生きることによって、わたしたちは自らの使命を果たし、キリストに栄光を帰し、地上における神の国を前進させるのです。

この神からの一致への招きを、抽象的な理想としてではなく、わたしたちの信仰の生き生きとした表現として受け止めましょう。キリストのからだである教会が、伝統や教派の内部、またそれら相互の間にある分裂によって傷ついているこの世にあって、使徒パウロの一致への呼びかけは、分断された教会共同体にだけでなく、その共同体の一員であるわたしたち一人ひとりにも向けられているのです。一致のうちに生きるとき、わたしたちは主イエス・キリストの愛と力をあかしするだけでなく、主の教えの本質そのものを体現することになります。互いに支え合い、多様なたまものや才能を祝い合う中で、キリストのみ旨を映し出し、この地における主のみわざをさらに前進させていきましょう。

エキュメニカル礼拝

はじめに

今年の「キリスト教一致祈祷週間」において、アルメニア使徒教会が取り上げられたことを非常に光栄に感じています。わたしたちの教会の、主イエス・キリストに対する古くからのキリスト教的あかしの核心から生まれたエキュメニカル礼拝を、世界中のキリスト者の兄弟姉妹と分かち合えることをうれしく思います。

この礼拝の主題「光よりの光、光のための光」は、ニケアコンスタンチノープル信条が採用した、キリストの属性に着想を得たものです。この信条は、すべてのキリスト者にとっての記念碑的な試金石であり、その1700周年を、昨年記念しました。キリストは「光よりの光」です。しかしこの油注がれたかたは使命を帯びてこの世に遣わされました。それは、この悩める世界に、神の光を輝かせ、わたしたちを互いに、また神との愛の交わりへと導くためです。ですから、「光よりの光、光のための光」なのです。

この礼拝は、アルメニア教会の時課の祈りの一つ「早天礼拝」をもとに構成しています。これは、アルメニア教会の偉大なるカトリコス（すなわち教会の総主教／指導者）であり、神学者、贊美歌作者、典礼改革者、エキュメニズム推進者、そして牧会者でもあった、グラの「慈心者」聖ネルセス・ザ・グレイシャス（1173年没）によって編纂されました。「慈心者」聖ネルセスが他のいかなる教会にも例を見ないこの礼拝を、エキュメニカルな意図をもって編纂したことは非常に重要です。当時アルメニアに広まっていた太陽崇拜を行う異教徒一派を、再びキリストの懷へと導くことを目的としていたのです。光であるキリストというイメージがこの礼拝の祈りや贊美歌、聖書朗読の随所に満ちており、太陽崇拜者たちの関心を確実に惹きつけたことでしょう。「慈心者」聖ネルセスは、失われた羊たちを脅迫でも交渉でもなく、自らの教会が提供しうるキリスト教的あかしの最高のものを創造性豊かに愛をもって差し出すことによって探し出したのです。おそらくこれは、神がわたしたちに望まれるキリスト者の交わりを追い求めるわたしたち全員にとって、一つの模範となりうるものです。

また、アルメニアがキリスト教を国教として宣言した最初の国となったことも注目に値します。これは、紀元301年に聖グレゴリオが異教徒の王トルダトを改宗させた功績によるものです。聖グレゴリオは「啓蒙者」として知られており、それは彼が、三位一体のみ名によって、聖霊の洗礼を通してキリストの

光をアルメニアの人々に届けたからです。

アルメニア教会の信者たちは、今年1年の間の、すべての教会からの祈りに感謝しています。どうか聖靈がわたしたちの心を大きく開き、全能の神がその子らに注ぐ輝かしい愛の光をいっそう鮮やかに見いだすことができますように。そしてまた、分裂という悲しむべき不名誉を直視し、キリスト者の和解の光を再びともすという切迫した緊急性を強く感じることができますように。わたしたちは「光よりの光」の限りないあわれみといつくしみに、つねに感謝しています。

司式者に割り当てられたテキストは、出席しているさまざまな教派の聖職者や代表者の間で分担することができます。同様に、朗読者に割り当てられたテキストも、複数の参加者で分けて朗読することができます。礼拝の特定の箇所で2人の朗読者が必要な場合は、朗読者1、朗読者2と表記されています。

説教後の祈りに続いて、会衆は左右に分かれ、詩編97編を交互に朗読または詠唱し、答唱句は全員が一緒に唱和します。詩編の朗読・詠唱の間に、会衆にろうそくが配られます。続く賛歌の間にろうそくに火がともされ、その後、全員でニケア信条を唱えます。

各地域の集会では、その地域でよく知られている聖歌を選ぶこともできますが、可能であれば、本礼拝式文に収められているアルメニアの賛歌を歌うことが望ましいでしょう。「光の賛歌」(From the East and to the West)、ろうそく点灯中の賛歌(Ageless, uncreated God)、主の祈り前の賛歌(Christ, the good and gracious Way)は、いずれも付録に記載された簡単な旋律で歌うことができます。ろうそく点灯中の賛歌には、各節の前に短いリフレインが入り、それはアルメニア語で「光」を意味する一つの単語「ルース(Looys)」です。この旋律は式文に含まれていますので、会衆がこの礼拝を執り行う際には、ぜひ取り入れてください。

礼 拝 式 文

主の祈り

司式者　わたしたちの主イエス・キリストを賛美します。アーメン。

会衆　天におられるわたしたちの父よ、
み名が聖とされますように。
み国が来ますように。
みこころが天に行われるとおり地にも行われますように。
わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。
わたしたちの罪をおゆるしください。
わたしたちも人をゆるします。
わたしたちを誘惑におちいらせず、
悪からお救いください。

(聖公会・カトリック共通)

司式者　国と力と栄光は、永遠にあなたのもの。

会衆　アーメン。

礼拝への招き

朗読者1　主のみ名が世々に祝福されますように。そのみ名は太陽よりも尊いからです。

朗読者2　地上のすべての国々は主によって祝福され、すべての世代が主をたたえます。

朗 読 者 1 イスラエルの神、主が祝福されますように。主はただひとり驚くべきみわざを行われるかた。

その聖なるみ名の栄光はとこしえに祝福されます。全世界がその栄光で満たされますように。

会 衆 アーメン、アーメン！

朗 読 者 2 栄光は父と子と聖靈に。

朗 読 者 1 今も、いつも、世々に。

会 衆 アーメン。

朗 読 者 2 平和のうちに、再び主に願いましょう。

主よ、わたしたちの祈りを聞き、いのちを与え、いつくしみをわたくしたちに。

司 式 者 父と子と聖靈に祝福と栄光がありますように。今も、いつも、世々に。

会 衆 アーメン。

光の賛歌 (From the East and to the West) 33 ページ

(歌の間に、聖堂正面の大きなろうそくに灯をともす)

(「慈心者」聖ネルセス)

連祷

朗 読 者 東に日が昇り、西に日が沈むまで、そして全キリスト教世界において、主のみ名を聖なるうちに呼び求めるすべての人々の祈りと執り成しによって、主がわたしたちにいつくしみを与えてくださいますように。

世の罪と誘惑から救ってくださるよう、神に願い求めましょう。

主が、わたしたちの心の誓いと願いを受け入れ、すべての聖徒とともにわたしたちをその信仰と戒めにふさわしいものとしてくださいますように。

全能の主なる神よ、わたしたちをいのちへと高め、いつくしみをお与えください。

会 衆 主よ、わたしたちをいのちへと高めてください。

朗 読 者 (礼拝が朝の場合)

主がこの光あふれる朝の案内役を務め、この一日を平和のうちに導いてくださいますように。信仰のうちに主に願いましょう。

(礼拝が夕の場合)

主がこれから訪れる夕べと夜を、平和のうちに導いてくださいますように。信仰のうちに主に願いましょう。

会 衆 主よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

朗 読 者 平和のみ使いがわたしたちの守護者となるよう、主に願いましょう。

会 衆 主よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

朗 読 者 わたしたちの罪のゆるしを、主に願いましょう。

会 衆 主よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

朗 読 者 聖なる十字架の大いなる力がわたしたちを助けてくださるよう、
主に願いましょう。

会 衆 主よ、わたしたちの祈りを聞き入れてください。

朗 読 者 あらためて、真の聖なる、わたしたちの信仰のために、心を合わ
せて主に願いましょう。

会 衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。

朗 読 者 全能の神、わたしたちの主に、わたしたち自身と、お互いをゆだ
ねましょう。

会 衆 主よ、わたしたちはあなたに自らをゆだねます。

朗 読 者 主なる神よ、あなたの大いなるいつくしみのうちに、わたしたち
にいつくしみをお与えください。
皆で声を合わせて祈りましょう。

会 衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。
主よ、いつくしみをわたしたちに。
主よ、いつくしみをわたしたちに。

祈りと平和のあいさつ

(司式者は東を向き、両手を広げて祈る)

司式者 東に日が昇り、西に日が沈むまで、主が祝福されますように。あなたは王であり、そのみ名は全宇宙にわたってたたえられます。わたしたちの聖歌が、あなたの耳に心地よく響きますように。あなたの義から正義が夜明けのように現れ、わたしたちの弱さの上に昇り、そして、あなたの聖なるみ名があがめられますように。わたしたちがあなたの戒めに従って生き、父と子と聖靈に、賛美と栄光をささげるにふさわしい者となれますように。今も、いつも、世々に。

会衆 アーメン。

(司式者は会衆のほうを向き、十字を切りながら、次のように唱える)

司式者 平和が皆さんとともに。

会衆 また、あなたとともに。

(会衆は平和のあいさつを交わす)

朗読者 神に頭を垂れましょう。

(会衆は、神に頭を垂れて、次のように唱える)

会衆 主よ、あなたの前に。

(司式者は再び東を向き、祈る)

司式者 永遠の神、とこしえの神、あなたはこの世に光として現れ、罪の闇にあるわたしたちを照らしてくださいました。限りない神、あなたは限りあるこの世に来られ、被造物に聖靈のたまものを豊かに注がれました。今も、そして永遠に、偉大なる神はたたえられますように、今も、いつも、世々に。

会衆 アーメン。

聖書朗誦

朗読者1 「イザヤの預言」より（58・6－11）
わたしの選ぶ断食とはこれではないか。
悪による束縛を断ち、くびきの結び目をほどいて
虐げられた人を解放し、くびきをことごとく折ること。
更に、飢えた人にあなたのパンを裂き与え
さまよう貧しい人を家に招き入れ
裸の人に会えば衣を着せかけ
同胞に助けを惜しまないこと。
そうすれば、あなたの光はあけぼののように射し出で
あなたの傷は速やかにいやされる。
あなたの正義があなたを先導し
主の栄光があなたのしんがりを守る。
あなたが呼べば主は答え
あなたが叫べば
「わたしはここにいる」と言われる。
くびきを負わすこと、指をさすこと
呪いのことばをはくことを
あなたのの中から取り去るなら
飢えている人に心を配り
苦しめられている人の願いを満たすなら
あなたの光は、闇の中に輝き出で

あなたを包む闇は、真昼のようになる。
主はつねにあなたを尊き
焼けつく地であなたの渴きをいやし
骨に力を与えてくださる。
あなたは潤された園、水のかれない泉となる。

朗 読 者 2 「エフェソの信徒への手紙」より（4・1－13）

そこで、主に結ばれて囚人となっているわたしはあなたがたに勧めます。神から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩み、一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心をもちなさい。愛をもって互いに忍耐し、平和のきずなで結ばれて、靈による一致を保つように努めなさい。からだは一つ、靈は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです。主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ、すべてのものの父である神は唯一であって、すべてのもの上にあり、すべてのものを通して働き、すべてのもの内におられます。

しかし、わたしたち一人ひとりに、キリストのたまもののはかりに従って、恵みが与えられています。そこで、「高い所に昇るとき、捕らわれ人を連れて行き、人々にたまものを分け与えられた」と言われています。

「昇った」というのですから、低い所、地上に降りておられたのではないでしょうか。この降りて来られたかたが、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりも更に高く昇られたのです。そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師とされたのです。こうして、聖なる者たちは奉仕のわざに適した者とされ、キリストのからだを造り上げてゆき、ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。

聖歌隊／会衆（歌唱） アレルヤ、アレルヤ。

いのちの泉はあなたとともにあり、
あなたの光のうちに、わたしたちは光を見る。

朗 読 者 アレルヤ。立ちましょう。

（司式者は会衆のほうを向き、十字を切りながら、次のように唱える）

司 式 者 平和が皆さんとともに。

会 衆 また、あなたとともに。

朗 読 者 ヨハネによる主イエス・キリストの福音に耳を傾けましょう
(12・31 - 36)。

会 衆 主に栄光。

朗 読 者 神が語られます。注意して、聞きましょう。

イエスは答えて言われた。「今こそ、この世が裁かれる時。今、この世の支配者が追放される。わたしは地上から上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せよう」。イエスは、ご自分がどのような死を遂げるかを示そうとして、こう言われたのである。すると、群衆はことばを返した。「わたしたちは律法によって、メシアは永遠にいつもおられると聞いていました。それなのに、人の子は上げられなければならない、とどうして言われるのですか。その『人の子』とはだれのことですか」。イエスは言われた。「光は、いましばらく、あなたがたの間にある。暗闇に追いつかれないように、光のあるうちに歩きなさい。暗闇の中を歩く者は、自分がどこへ行くのか分からぬ。光の子となるために、光のあるうちに、光を信じなさい」。

聖歌隊／会衆 主イエス・キリストに栄光。

説教

祈り

朗 読 者 恵みあふれる主、万物の神、
迷える者の導き、闇に住む者の光、
わたしたちは、あなたにまなざしを向けます。わたしたちの祈り
を聞き入れてください。

あなたの栄光の太陽が輝きわたり、東から西へ、北から南へ万物
にいのちと光をお与えください。

あなたが放つ永遠の春の朝の光が、あなたの来臨を待ち望むわた
したちを目覚めさせてくださいますように。

光よりの光である主イエス・キリスト、
あなたの聖なる尊いみ名を礼拝するために集まったわたしたちの
うちにお住まいください。
いのちを与えるあなたの光が、互いへのより深い愛をわたしたち
のうちに燃え立たせますように。
あなたのまばゆい光が、わたしたちをより豊かな一致へと駆り立
てますように。

み国の園に咲く多様な花のように、
あなたの神聖なる光によって、わたしたちが調和のうちに花開き
ますように。
こうして、わたしたちすべてが一つとなって、
喜びをもってあなたと父と聖霊を賛美し、
たたえることができますように。
今もいつも世々に。アーメン。

(ナレクの聖グレゴリオによる祈り参照)

答唱詩編

(会衆は左右に分かれ、詩編を交互に唱え、または歌い、答唱を全員で唱和する。
詩編が唱えられ／歌われている間、会衆にろうそくが配られる)

朗 読 者 すべてのものの神よ、わたしたちは、あなたにまなざしを向けます。
どうかわたしたちにいつくしみを注ぎ、祈りを聞き入れてください。

会 衆 すべてのものの神よ、わたしはあなたにまなざしを向けます。
どうかわたしたちにいつくしみ注ぎ、祈りを聞き入れてください。

左 側 主こそ王。全地を喜び躍れ。多くの島々よ、喜び祝え。

右 側 密雲と濃霧が主の周りに立ち込め、正しい裁きが王座^{もとい}の基をなす。

全 員 すべてのものの神よ、わたしたちは、あなたにまなざしを向けます。
どうかわたしたちにいつくしみを注ぎ、祈りを聞き入れてください。

左 側 火はみ前を進み、周りの敵を焼き滅ぼす。

右 側 稲妻は世界を照らし出し、地はそれを見て、身もだえし、

全 員 すべてのものの神よ、わたしたちは、あなたにまなざしを向けます。
どうかわたしたちにいつくしみを注ぎ、祈りを聞き入れてください。

左 側 山々はろうのように溶ける。主のみ前に、全地の主のみ前に。

右 側 天は主の正しさを告げ知らせ、すべての民はその栄光を仰ぎ見る。

全 員 すべてのものの神よ、わたしたちは、あなたにまなざしを向けます。
どうかわたしたちにいつくしみを注ぎ、祈りを聞き入れてください。

- 左 側 すべて、偶像に仕える者、むなしい神々を誇りとする者は恥を受ける。
神々はすべて、主に向かってにひれ伏す。
- 右 側 シオンは聞いて喜び祝い、ユダのおとめらは喜び躍る。主よ、あなたの裁きのゆえに。
- 全 員 すべてのものの神よ、わたしたちは、あなたにまなざしを向けます。
どうかわたしたちにいつくしみを注ぎ、祈りを聞き入れてください。
- 左 側 あなたは主、全地に君臨されると高き神。神々のすべてを超え、
あがめられる神。
- 右 側 主を愛する人は悪を憎む。主のいつくしみに生きる人の魂を主は
守り、神に逆らう者の手から助け出してくださる。
- 全 員 すべてのものの神よ、わたしたちは、あなたにまなざしを向けます。
どうかわたしたちにいつくしみを注ぎ、祈りを聞き入れてください。
- 左 側 神に従う人のためには光を、心のまっすぐな人のためには喜びを
種まいてくださる。
- 右 側 神に従う人よ、主にあって喜び祝え。聖なるみ名に感謝をささげよ。
- 全 員 荣光は父と子と聖霊に。
今も、いつも、世々に。アーメン。

(詩編 97)

ろうそく点灯中の賛歌 (Ageless, uncreated God) 34 ページ
(賛歌が歌われている間、2人の若者が、火についていないうそくか小ろうそくをもち、中央のろうそくから火を受けてともし、その火を教会内のすべての人々に渡していく)

(「慈心者」聖ネルセス)

信仰宣言

司式者 キリストの知恵の光に照らされ、ともにわたしたちに共通の信仰を告白しましょう。

会衆 わたしは信じます。唯一の神、
全能の父、天と地、
見えるもの、見えないもの、すべてのものの造り主を。
わたしは信じます。唯一の主イエス・キリストを。

主は神のひとり子、
すべてに先立って父より生まれ、
光よりの光、まことの神よりのまことの神、
造られることなく生まれ、父と一体。
すべては主によって造されました。

主は、わたしたち人類のため、
わたしたちの救いのために天からくだり、
聖霊によって、おとめマリアよりからだを受け、
人となられました。

ポンティオ・ピラトのもとで、
わたしたちのために十字架につけられ、
苦しみを受け、葬られ、
聖書にあるとおり三日目に復活し、
天に昇り、父の右の座に着いておられます。

せいしや
主は、^{せいしや}生者と死者を裁くために栄光のうちに再び来られます。
その国は終わることがありません。

わたしは信じます。主であり、いのちの与え主である聖靈を。
聖靈は、父から出て、
父と子とともに礼拝され、栄光を受け、
また預言者をとおして語られました。

わたしは、聖なる、普遍の、使徒的、唯一の教会を信じます。
罪のゆるしをもたらす唯一の洗礼を認め、
死者の復活と来世のいのちを待ち望みます。
アーメン。

(この礼拝式文に収録されている信条は、世界教会協議会総会やその他のエキュメニカルな行事で通常使用されているニケア・コンスタンチノープル信条です)

執り成しの祈り

司式者 平和のうちに、あらためて主に祈り求めます。
その光を被造物の上に注がれ、全能の神を賛美しましょう。
今、主のみ名を賛美する歌を歌う者たちの上に、豊かないつくしみを再び注いでください。
全能の主なる神、わたしたちをいのちへと引き上げ、いつくしみをお与えください。

会衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。
主よ、いつくしみをわたしたちに。
主よ、いつくしみをわたしたちに。

司式者 恵み深い全能の主、神の子イエス・キリスト
あなたはまことの光。罪の闇を払い、
あなたの永遠のみ国の喜びと希望を、わたしたちの心に輝かせく
ださいました。

会衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。

司式者 愛の主よ、世界中の忠実な子らが、一つの心、一つの声、一つの
心であなたを呼び求める、
祈りを受け入れてください。
あなたが、愛する弟子ヨハネを通して約束されたように、
あなたの光のうちを歩むならば、
わたしたちは互いに交わりの中で生き、
あなたの尊い血によってすべての罪から清められます。
救い主よ、どうかわたしたちにその祝福された交わりをお与えく
ださい。

会衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。

司式者 愛の主よ、わたしたちに平和をお与えください。
地上から内乱と暴力の災いを取り除いてください。
戦争を起こすすべての人の心を変え、戦争に苦しむすべての人の
傷に触れてください。
捕虜となっているすべての人を慰め、
速やかに故郷へ帰らせてください。
あなたの愛の光が、この世界のすべての闇を照らし、
すべての民が正義をもって平和に暮らせる日が早く来ますように。

会衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。

司式者 主イエス・キリスト、あなたは逃れ場、憩いの場です。
世界中で故郷を追われ、住まいを失って苦しんでいる難民たちに
あわれみのまなざしを注いでください。
わたしたちが、あなたと彼ら、そして互いの交わりを、歓待と愛
ある援助の姿勢を通して示すことができるよう導いてください。

会衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。

司式者 キリスト、わたしたちの救い主よ、アルメニアとアルツアフの人々
と、世界中のその同胞のために祈ります。
彼らはかつて、使徒タダイの宣教と、啓蒙者聖グレゴリオの奇跡
的なあかしによってあなたの光に立ち帰ったのです。

会衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。

司式者 あなたの義と知恵の光で、すべての被造物を照らしてください。
わたしたちを「光の子」、「昼の子」としてください。
それによってわたしたちはつねに畏敬の念をもって生き、
全世界において、
いのちを与えるあなたの光のふさわしい燭台となるでしょう。

会衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。

司式者 あなたこそわたしたちの救い主、あなたに、すべての誉れと栄光が、
今も、いつも、世々に。

会衆 アーメン。

主の祈り前の賛歌 (Christ, the good and gracious Way) 35 ページ

(「慈心者」聖ネルセス)

主の祈り

司式者 わたしたちの主イエス・キリストに賛美。

会衆 アーメン。

会衆 天におられるわたしたちの父よ、
み名が聖とされますように。
み国が来ますように。
みこころが天に行われるとおり地にも行われますように。
わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。
わたしたちの罪をおゆるしください。わたしたちも人をゆるします。
わたしたちを誘惑におちいらせず、
悪からお救いください。

(聖公会・カトリック共通)

國と力と榮光は、永遠にあなたのもの。アーメン。

司式者 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが皆さん之上にありますように。

会衆 アーメン。

付録

光の贊歌 (From the East and to the West)

As the hymn is being sung, a large candle is lit in the front of the church.

Moderate

From the East and to - the We - st,
Zi - on's bles - sed hei - - - rs,
Al - ways pra - ise u - n cea - sing ly - - -
Him who dawns the Li - - - ght.

C/A From the East and to the West,
Zion's blessed heirs,
Always praise unceasingly
Him who dawns the Light.

Churches of the righteous ones,
All who honour him,
Glorify the One who gave
Meaning to the light.

St Nersess the Gracious

ろうそく点灯中の賛歌 (Ageless, uncreated God)

While the hymn is being sung, two young people holding unlit candles or tapers light them from the central candle and the light is passed to all in the church.

Musical notation for the first stanza. The melody is in G major, common time. The lyrics are "Loo - - - - ooys". The music consists of a single melodic line on a staff with a treble clef, featuring eighth and sixteenth note patterns.

Ageless, uncreated God,
Father, Lord of all;
Heed our prayers, the earnest pleas
Of those serving you.

Musical notation for the second stanza. The melody is in G major, common time. The lyrics are "Loo - - - - ooys". The music consists of a single melodic line on a staff with a treble clef, featuring eighth and sixteenth note patterns.

From the Father, wondrous Dawn,
Just and righteous Sun;
Rise, shine forth upon us all
Kind and tender Light.

Musical notation for the third stanza. The melody is in G major, common time. The lyrics are "Loo - - - - ooys". The music consists of a single melodic line on a staff with a treble clef, featuring eighth and sixteenth note patterns.

Spirit pouring from the Fath'r,
Wellspring of the good;
Fill us with your rad'iant Light
In this new day's morn.

Musical notation for the fourth stanza. The melody is in G major, common time. The lyrics are "Loo - - - - ooys". The music consists of a single melodic line on a staff with a treble clef, featuring eighth and sixteenth note patterns.

Persons three, in nature one,
One Divinity;
We confess you at all times –
Holy Trinity.

St Nersess the Gracious

主の祈り前の賛歌 (Christ, the good and gracious Way)

Moderate



C/A Christ, the good and gracious Way,
And the living Truth.
Leader of our spirits from
Earth to heav'n above.

Jesus, Door to Life, True God,
Through you we shall come;
Now admit us to your Father,
By your Holy Spirit.

Si Nervesse the Gracious

8日間の默想と祈り

第1日　わたしたちへの招き

今日の聖句

そこで、主に結ばれて囚人となっているわたしはあなたがたに勧めます。神から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩みなさい（エフェソ4・1）。

他の朗読箇所

ミカ6・6－8

詩編133

マルコ3・13－15

解説

エフェソの信徒への手紙4章1節でパウロは、「招かれた……その招き」にふさわしい生活を送ることの大切さを強調しています。これは、キリスト者の共同体の一致と密接に関連するものです。分裂した社会のただ中にあって、信者たちが障壁を乗り越え、和解を促進するよう、福音は呼びかけます。この神からの呼びかけは、信者たちの友情の中で、神の価値観を体現するようわたしたちを招きます。この呼びかけに従って行動することで、わたしたちはキリストの教えを映すだけでなく、キリストのからだの一致と成長に貢献することになります。この呼びかけを認識して、受け入れることは、キリスト者の共同体の真の本質を生き抜き、調和と支え合いの友情関係を育てるには不可欠です。

問い合わせ

エフェソの信徒への手紙4章1節で表現されている、「招かれた……その招き」について考察することが、皆さんの地域や、より広い教会共同体における一致のために、積極的に貢献しようという気持ちにさせてくれますか。

祈り

光である神よ、

あなたはわたしたちを、闇からあなたの光へと招いてくださいました。

あなたの招きにこたえ、積極的に和解を求め、

この世であなたの光を分かち合うことができますように。

アーメン。

第2日 愛をもって互いに忍耐しなさい

今日の聖句

いっさい高ぶることなく、柔軟で、寛容の心をもちなさい。愛をもって互いに忍耐しなさい（エフェソ4・2）。

他の朗読箇所

ゼカリヤ7・8－10

詩編25・6－10

ルカ10・30－36

解説

使徒パウロは意義深い社会的指針を示し、キリスト者としての召命にふさわしい生き方をわたしたちに勧めます。パウロは信者たちに、「高ぶることなく、柔軟で、寛容の心」をもち、「愛をもって互いに忍耐」するよう勧めます（エフェソ4・2）。この神の招きは、単なる個人的な旅路ではなく、他者とのかかわりの中で鮮明に表現されるものです。パウロが強調する四つの徳——謙遜、柔軟、忍耐、寛容——は、愛に満ちた関係をはぐくむために不可欠です。これらの徳を体現することは、他者に対して真に謙遜な精神で接し、忍耐を試す人にも柔軟に接し、挑んでくる人にも寛容さを示すことを意味します。もっとも根本的には、それは、違いがあるにもかかわらず、「互いに忍耐」することを含むもので、それによって、地上のあらゆる分断を超えて、神の無限のあわれみという恵みを体現する愛を映し出すのです。

問い合わせ

エフェソの信徒への手紙で述べられている謙遜、柔軟、忍耐、寛容といった徳は、わたしたちが信者として、自分の地域のキリスト者の共同体内部の分裂を乗り越えるうえで、どのように役立つものでしょうか。

祈り

主イエス・キリスト、

あなたは、謙遜と柔軟をもって、いかにして互いに忍耐するのかを、わたしたちに示してくださいました。

どうか、あなたがわたしたちの道を照らす光がわたしたちを一致に導き、幾度も共同体を分裂させる、

分断や無関心の傷をいやす力となりますように。

アーメン。

第3日 平和のきずな

今日の聖句

平和のきずなで結ばれて、靈による一致を保つように努めなさい(エフェソ 4・3)。

他の朗読箇所

イザヤ 11・6 – 9

詩編 86・8 – 13

ヨハネ 14・27 – 31

解説

平和は、教会内的一致を保つうえで、決定的な要素です。エフェソの信徒への手紙4章3節において、「平和のきずな」は、キリスト者の共同体の一致を結び合わせるだけでなく、それを保つ、重要で能動的な原理を意味しています。平和の王であるキリスト（イザヤ9・6参照）は、平和と和解を説きました。平和は「靈の結ぶ実」（ガラテヤ5・22）であり、靈のたまものであるとともに、その働きの結果でもあるのです。「平和のきずな」は、背景や意見の違いにもかかわらず、多様な人々を一つにし、教会の結びつきを保つ、強力な力です。平和によって、意義ある関係が育ち、信者たちが調和のうちに互いに交流し、互いをいっそうゆるすことができるようになります。パウロは、真の一一致には、平和への継続的な取り組みが必要であると強調します。そのために、人々の間で積極的に平和をはぐくみ、促進することが求められるのです。

問い合わせ

聖パウロが、平和は靈の結ぶ実であると教えたことは、わたしたちの共同体における日々の交流や人間関係、とりわけ和解やゆるしが必要な場面において、どのような影響を与えるでしょうか。

祈り

主イエス・キリスト、
あなたは平和の王です。

わたしたちの間で、この混乱した世界の中で、平和のきずなを強めてください。
戦争を起こすすべての人の心を改めさせ、戦争で苦しむすべての人の傷に触れて
ください。

とりわけアルメニアとアルツアフの人々、
さらに世界中にいる彼らの親族のために、祈ります。
あなたの愛の光が、この世のすべての闇の地を照らし、
すべての民族が正義と平和の中で暮らせる日を、一刻も早くもたらしてください。
アーメン。

第4日 一つの希望にあずかるようにと招かれている

今日の聖句

からだは一つ、靈は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです（エフェソ4・4）。

他の朗読箇所

申命記 6・4－9

詩編 24・1－6

ヨハネ 17・20－26

解説

エフェソの信徒への手紙4章4節で使徒パウロは、世界中の教会を結びつける、深い一致を強調しています。この一致は、すべてのキリスト者を信仰で結びつける一つの靈と一つの希望に根ざしています。聖靈降臨の日、聖靈は、世界へと向かう教会の使命に火をつけました。この同じ靈が、今日、わたしたちに力を与え、わたしたちの共通の使命をはぐくみ、国や文化の境界を越えた普遍教会を育てます。イエス・キリストによる救いへのわたしたちの共通の希望は、この一致の隅石であり、多様な諸民族を、一、聖、公、使徒継承の教会へと集めるのです。キリスト者としてわたしたちは、この唯一の希望と、わたしたちに洗礼を受け新たにする、唯一の靈によって特徴づけられます。わたしたちの務めは、この一致を、単なる概念ではなく、生き生きとした現実とし、共通の使命と互いへの愛を強めていくことです。

問い合わせ

教会、また共同体としてわたしたちは、自分たち独自のアイデンティティや伝統を維持しながら、唯一の召命という課題にどのように取り組むことができるでしょうか。

祈り

イエス・キリスト、

あなたはわたしたちを多様性のうちに、あなたの家族、教会として、一つに集められました。

希望が、絶望や傷ついた心に取って代わられる状況が数多くあるこの世において、世界を変える聖霊の働きのうちに、わたしたちの希望を新たにしてください。

この希望を、あらゆる場所のあらゆる人々に広めるよう、わたしたちを駆り立ててください。

あなたは真の光であり、罪の闇を追い払い、

わたしたちの心に、あなたの永遠の愛の喜びと希望を輝かせます。

アーメン。

第5日 信仰は一つ、洗礼は一つ

今日の聖句

主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ（エフェソ4・5）。

他の朗読箇所

ゼカリヤ14・6－9

詩編100

マタイ28・16－20

解説

エフェソの信徒への手紙4章5節で使徒パウロは、洗礼は、個人が教会の交わりに入り、同じ主に対する共通の献身を確認することにより、キリスト者の一致を確固たるものとする行為であると強調します。わたしたちは主のからだにおいて一つであるので、洗礼は、教会の集団としてのアイデンティティを創出します。仲間がさまざまな背景をもっていたとしても、信仰と洗礼における一致はあらゆる分裂を超越するということを、この秘跡は強く思い起こさせます。こうした一致の要素に焦点を当てることによって、教会は、揺るぎない一致を保ちながら、その多様性を祝うことができます。このことによってわたしたちは、違いよりも、キリストにおける共通のアイデンティティを優先し、すべてのキリスト者を結びつけるきずなを強めるという課題を与えられます。

問い合わせ

わたしたちの多様な共同体は、イエス・キリストへの共通の信仰と、洗礼によって確立された一致を祝うために、どのような協働の取り組みを行えるでしょうか。

祈り

神の靈、まことの神よ、
あなたはヨルダン川に下って、2階の広間に入り、
聖水による洗礼によってわたしたちを照らしてくださいました。
わたしたちは、あなたの前で、天に対し罪を犯しました。
炎のような舌で、使徒たちを清めたように、
あなたの神聖な炎で、わたしたちを再び清めてください。
あなたの被造界、とりわけわたしたちにいつくしみをお与えください。
アーメン。

(いつくしみの聖ネルセス [改変])

第6日 父である主は唯一

今日の聖句

すべてのものの父である神は唯一であって、すべてのものの上にあり、すべてのものを通して働き、すべてのものの内におられます（エフェソ4・6）。

他の朗読箇所

列王記上8・56－60

詩編148・7－13

マタイ5・44－48

解説

エフェソの信徒への手紙4章6節で聖パウロは、神は「すべてのものの上にあり、すべてのものを通して働き、すべてのものの内におられます」と述べ、神の深遠な唯一性を強調しています。神は、すべてを超える超越的な存在であると同時に内在的であり、被造物のうちに能動的に存在しておられます。この根本の真理は、教会が一致を体现し、それを生き抜いて、すべての信者の御父である、真の唯一の神への共通の信仰に根ざすよう招きます。「すべて」とは、神の似姿に創造された一人ひとりが、神の権威の下にあることを意味します。唯一の神を礼拝することは、キリスト者の間に強い一致のきずなを生み出します。家族が親への愛によって一致の基盤を見いだすように、キリスト者も、同じ御父への信仰によって一致するよう招かれているのです。

問い合わせ

すべての人への愛と思いやりに満ちた御父としての神の似姿を、さまざまな教会共同体の使命と奉仕職にどのように取り入れ、より一致したキリスト者のあかしを世に推進していくことができるでしょうか？

祈り

愛に満ちた父よ、わたしたちは信仰を告白し、あなたを礼拝します。

あなたは、ことばを超えて天に、理解を超えて地上に、

御子イエス・キリストを通して現存しておられるからです。

柔軟な愛によって、あなたはすべてのものの始まりであり、完成です。

父よ、御子と聖霊とともに、

栄光は、永遠にあなたのものです。

アーメン。

(ナレクの聖グレゴリオ [改変])

第7日 洗礼のうちに与えられる神のたまもの

今日の聖句

しかし、わたしたち一人ひとりに、キリストのたまもののはかりに従って、恵みが与えられています（エフェソ4・7）。

他の朗読箇所

エレミヤ1・4－9

詩編131

マタイ25・14－18

解説

諸教会とすべての地域社会は、神から授かった一致のうちに多様性を有し、キリストのたまものに応じて与えられた恵みによって、神の国を築き上げています。これらの靈的たまものは、唯一の主によって、唯一の洗礼のうちに、ただ一つの目的のために与えられます。一致のうちの多様性——、それは聖靈の働きにおける、キリストを中心据えた教会独自の豊かさであり力なのです。

問い合わせ

たまものの多様性は、対立や競争の原因ではなく、互いに強め合い、分かち合う理由であるということを受け入れるならば、わたしたちの関係はどのように変化するでしょうか。

祈り

主イエス・キリスト、

聖靈の働きによって、唯一の洗礼のうちに、

あなたはわたしたちにすばらしい恵みと多くのたまものを与えてくださいました。

それは、あなたのからだである教会を築き上げるためです。

今、わたしたちに、その多様性の豊かさを十分に理解し、

福音をさらに広めるためにそれを十分に活用する意志をお与えください。

あなたの名によって、祈ります。

アーメン。

第8日 キリストのうちに成長する

今日の聖句

神が与えてくださったたまものは、キリストのからだを築き上げるためであり、ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです（エフェソ4・13参照）。

他の朗読箇所

箴言 9・10－12

詩編 119・97－104

ヨハネ 17・3－7

解説

エフェソの信徒への手紙4章13節で、使徒パウロは、キリストのからだに関するビジョンを三つの鍵となる領域、すなわち信仰における一致、知の成熟、キリストのうちに完成に要約しています。成熟は、イエス・キリストに関する知が深まるところで得られます。これは生き方を変える知であり、わたしたちの考えを一新し、単なる知的な理解にとどまらず、行動において実践に移すよう導くものです。わたしたちは、キリストを知れば知るほど、ますますキリストに似ていきます。この知を得るために、キリストの教えを学び、日々、従順のうちにそれを生きなければなりません。「キリストの完全な姿」は、キリスト者の成熟の到達点です。それは、あらゆる点でイエスにより似たものとなっていくことを意味します。つまり、イエスが愛するように愛し、イエスが仕えるように仕え、イエスの性格を映す人間になるのです。わたしたちは、自らの靈的旅路を振り返り、互いに一致を求め、神の御子についての知識を深め、内なる神の完成を追い求めるよう招かれているのです。

問い合わせ

いかにしてわたしたちは、キリストについての知識を深め、その知識によって、自分の行動、考え、人間関係を形づくるようにしているでしょうか。

祈り

世のまことの光であるキリスト、
わたしの魂を、
自分が招かれる日に喜びをもって、あなたの栄光の光を見、
あなたの偉大な到来の日まで、義人の家において、
善なるものの希望をもって懇うにふさわしいものとしてください。
あなたの被造物、そして大いなる罪人であるわたしに、いつくしみをお与えください。
栄光は、父と子と聖霊に。今も、いつも、世々に。アーメン。

過去 30 年におけるアルメニアのエキュメニズムの状況

はじめに

1991 年のソビエト連邦の崩壊は、アルメニアにとって重要な転換点となり、同国の宗教的・文化的アイデンティティの復活につながりました。過去 30 年間のアルメニアにおけるエキュメニズムの状況は、アルメニア使徒教会の復興、新しいキリスト教諸派の台頭、諸宗教間の協力に向けた取り組みなどに象徴されるように、著しい変貌を遂げてきました。

アルメニア使徒教会の復興

世界最古のキリスト教教会の一つであるアルメニア使徒教会は、ソ連の無神論政策の終焉後に復興を遂げました。ソ連時代、宗教活動は厳しく制限され、多くの教会は転用されたり、荒廃したまま放置されていました。新たな信教の自由により、教会はアルメニア人のアイデンティティと靈性の礎としての役割を取り戻すことができました。

復興は、教会財産の回復と神学校の再開から始まりました。アルメニア使徒教会の靈的、行政的本部である聖エチミアジン総主教庁が、この取り組みを主導しました。教会はまた、聖職者の養成、宗教教育の推進、何十年もの間抑圧されてきた典礼の伝統の回復にも注力しました。

新たなキリスト教諸派の台頭

ソ連による支配の崩壊に伴い、アルメニアではさまざまなキリスト教諸派や宗教運動が台頭しました。それまで地下で活動していた福音派やその他のプロテスタント教会も、正式な教派を設立し、礼拝所を建設し始めました。19 世紀にさかのぼる歴史を有するアルメニア福音教会も成長を経験しました。ペンテコステ派やカリスマ刷新運動もまた、現代的な礼拝形態を求める若いアルメニア人の間で、とくに人気を博しました。これらの諸派は、新しい神学的視点や礼拝実践を導入し、国内の宗教の多様性をさらに拡大しました。過去 15 年にわたる、アルメニア使徒教会とアルメニア福音教会の間の協力のさまざまな側面を議論する特別委員会が設立されています。協力分野は、アルメニアにおける教会の社会的・

奉仕的使命に関するものに限られています。

アルメニアにおける他の少数派教団の生活

2011 年の国勢調査によると、アッシリア人の人口は 2,500 人から 3,000 人で、ヤジディ教徒、ロシア人に次いでアルメニアで 3 番目に多い少数民族です。その大半はアッシリア東方教会に属していますが、カルデア典礼カトリック教会に属する小さな共同体もあります。アッシリア人の最大の居住地は、アラート地方のヴェリン・ドヴィンとディミトロフ、コタイク地方のアルズニ、アルマヴィル地方のノル・アルタゲルスに集中しています。アルメニア人とアッシリア人の関係は、第一次世界大戦中のオスマン・トルコによる大量虐殺を含む、共通の歴史と相互の悲劇に根ざした温かさと友情によって、長きにわたり特徴づけられてきました。アッシリア人は、アルメニアにおいても独自の文化的存在であることを維持し、彼らの言語であるネオ・アラム語を教える公立学校が 4 校あります。さらに、アッシリア人共同体はアルメニア議会にも代表を送っています。アルメニア使徒教会とアッシリア東方教会の関係も同様に友好的です。このことは、2021 年にカトリコス総主教、マル・アワ三世がアルメニアを公式訪問し、全アルメニアのカトリコス、ガレギン二世と会談したことで明確に示されました。

諸宗教対話とエキュメニズムの努力

この 30 年間、アルメニアでは、諸宗教間の対話とエキュメニカルな協力の推進に向けての、一致した努力が払われてきました。アルメニア使徒教会は、その主導的立場を維持しつつ、アルメニア聖書協会や WCC 円卓会議慈善財団などの活動を通じて、アルメニア典礼カトリック教会やアルメニア福音教会といった他の諸教会とも協力関係にあります。

2010 年以来、アルメニア使徒教会と、イランのイスラム文化コミュニケーション協会は、エコロジーと宗教的寛容の問題について活発な対話を続けています。この協力関係は、イランのイスラム文化コミュニケーション機構の代表であるモハメド・メフディ・イマニプール氏が聖エチミアジン総主教府を訪問し、ガレギン二世聖下と公式会談を行ったことで、さらに強化されました。

課題と機会

進展は見られるものの、アルメニアにおけるエキュメニズムの動向は複数の課題に直面しています。さらに、現代のアルメニア社会における世俗主義と物質主義の台頭は、すべての宗教団体の影響力に課題を投げかけています。

しかしながら、これらの課題は、エキュメニズムの取り組みをさらに前進させる機会でもあります。ソ連支配下での迫害と生き残りを共有した歴史は、キリスト者の共同体がより強固なきずなを築くための共通基盤となっています。アルメニアの文化や宗教遺産の保護に対する関心の高まりは、さまざまな取り組みにおける協力の基盤となっています。

まとめ

この30年間のアルメニアのエキュメニズムの状況は、活発で変化に富んだ宗教情勢を反映しています。アルメニア使徒教会の復興と、新たなキリスト教諸派の台頭が、この国の靈的、文化的アイデンティティを形づくってきました。アルメニアが複雑な現代社会を舵取りして進む中、エキュメニズムの精神は、調和のとれた包摂的な社会を築くうえで、決定的な役割を果たすでしょう。

◇ キリスト教一致祈祷週間のテーマ一覧（1968–2026年）◇

1968年、世界教会協議会（WCC）信仰職制委員会と、教皇庁キリスト教一致推進評議会が共同発行した冊子が初めて使用されました。

- 1968 神の栄光をほめたたえるに至るために（エフェソ 1・14）
- 1969 自由への召し（ガラテヤ 5・13）
- 1970 わたしたちは神の同労者である（一コリント 3・9）
- 1971 聖霊の交わり（二コリント 13・13）
- 1972 わたしは新しいおきてをあなたがたに与える（ヨハネ 13・34）
- 1973 主よ、祈ることを教えてください（ルカ 11・1）
- 1974 すべての舌が「イエス・キリストは主である」と告白するように（フィリピ 2・1－13）
- 1975 すべてはキリストのもとに（エフェソ 1・3－10）
- 1976 わたしたちはまことの姿になるよう召されている（一ヨハネ 3・2）
- 1977 ともに希望をもって屈せず（ローマ 5・1－5）
- 1978 もはや他人ではない（エフェソ 2・13－22）
- 1979 み栄えのため互いに仕えよう（一ペトロ 4・7－11）
- 1980 み国が来ますように（マタイ 6・10）
- 1981 一つの靈 多くの賜物 一つの体（一コリント 12・3b－13）
- 1982 主こそわがやどり（詩編 84）
- 1983 イエス・キリスト—この世の生命（一ヨハネ 1・1－4）
- 1984 主の十字架は一致への道（一コリント 2・2, コロサイ 1・20）
- 1985 キリストとともに死から生命へ（エフェソ 2・4－7）
- 1986 我が証人となれ（使徒言行録 1・6－8）
- 1987 キリストにあってともに新しく（二コリント 5・17－6・4a）
- 1988 愛は恐れをとりのぞく（一ヨハネ 4・7－21）
- 1989 キリストに結ばれて一つのからだに（ローマ 12・1－21）
- 1990 キリストの祈りのうちに（ヨハネ 17）
- 1991 すべての國よ、主を贊美せよ（詩編 117, ローマ 15・5－13）

- 1992 わたしはあなたがたとともにいる。だから行きなさい。（マタイ 28・16－20）
- 1993 聖霊の実はキリスト者の一致を生む（ガラテヤ 5・22－23）
- 1994 神の家族・心も思いも一つにして（使徒言行録 4・23－37）
- 1995 コイノニア・神にある交わり、お互いの間の交わり（ヨハネ 15・1－17）
- 1996 見よ、わたしは戸口に立って、たたいている（黙示録 3・14－22）
- 1997 神と和解させていただきなさい（二コリント 5・16－21）
- 1998 “靈”は弱いわたしたちを助けてくださる（ローマ 8・14－27）
- 1999 神が人と共に住み、その神となり、人は神の民となる（黙示録 21・3）
- 2000 神はほめたたえられますように。神はわたしたちをキリストにおいて祝福で満たしてくださった（エフェソ 1・3－14）
- 2001 わたしは道、真理、いのち（ヨハネ 14・6）
- 2002 神よ、命の泉はあなたにある（詩編 36・6－10）
- 2003 わたしたちは、このような宝を土の器に納めています（二コリント 4・7）
- 2004 わたしの平和を与える（ヨハネ 14・27）
- 2005 教会の土台であるキリスト（一コリント 3・1－23）
- 2006 二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる（マタイ 18・18－20）
- 2007 耳の聞こえない人を聞こえるようにし、口の利けない人を話せるようにしてください（マルコ 7・31－37）
- 2008 絶えず祈りなさい（一テサロニケ 5・(12a) 13b－18）
- 2009 それらはあなたの手の中で一つとなる（エゼキエル 37・15－28）
- 2010 あなたがたはこれらのことの証人となる（ルカ 24・48）
- 2011 使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることにおいて一つ（使徒言行録 20・42 参照）
- 2012 わたしたちは皆、主イエス・キリストの勝利によって変えられます（一コリント 15・51－58 参照）

- 2013 神が何をわたしたちに求めておられるか（ミカ 6・6-8 参照）
- 2014 キリストは幾つにも分けられてしまったのですか（一コリント 1・1-17）
- 2015 イエスは「水を飲ませてください」と言われた（ヨハネ 4・7）
- 2016 主の力あるわざを、広く伝えるために招かれて（ペトロ 2・9 参照）
- 2017 キリストの愛がわたしたちを駆り立てています（二コリント 5・14-20 参照）
- 2018 主よ、あなたの右の手は力によって輝く（出エジプト 15・6）
- 2019 ただ正しいことのみを追求しなさい（申命記 16・20）
- 2020 人々は大変親切にしてくれた（使徒言行録 28・2 参照）
- 2021 わたしの愛にとどまりなさい。そうすれば、あなたがたは豊かに実を結ぶ。（ヨハネ 15・5-9 参照）
- 2022 わたしたちは東方でそのかたの星を見たので、拝みに来たのです。（マタイ 2・2）
- 2023 善を行い、正義を追い求めなさい（イザヤ 1・17 参照）
- 2024 あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい（ルカ 10・27）
- 2025 このことを信じるか（ヨハネ 11・26）
- 2026 からだは一つ、靈は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです（エフェソ 4・4）

◇キリスト教一致祈祷週間にに関する歴史上の重要な年◇

1740 年頃 スコットランド	スコットランドで起り、北アメリカ大陸まで及んでいった聖靈による働きに目覚めた人々がいた。それは諸教会を包む信仰覚醒運動の祈りであった。(メソジスト運動)
1820 年 ジェームス・H・スチュアート	ジェームス・H・スチュアート神父の著作が出版された。 “Hints for the General Union of Christians for the Out-pouring of the Spirit”
1840 年 イグナティウス・スペンサー	ローマ・カトリックへ改宗した、イグナティウス・スペンサー神父は、「一致のための合同の祈り (Union of Prayer for Unity)」を提唱した。
1867 年 ランベス会議	聖公会の主教たちによる第1回ランベス会議が行われ、一致祈祷についての転換の前兆となった。(1920 年のランベス会議決議では、「教会の再一致の訴え」を協議した。)
1894 年 教皇レオ13世	ローマ教皇レオ13世は、聖靈降臨に関連して、一致のために八日間の祈りの実施を奨励した。
1908 年 ポール・ワトソン	「教会一致のための八日間の祈り」が、ポール・ワトソン神父によって初めて行われた。
1926 年 信仰と職制運動	信仰と職制運動は「キリスト教一致のための八日間の祈りの提案」を広める活動を開始した。
1935 年 ポール・クトゥリール	フランスのポール・クトゥリールは「主の意志によってキリスト教が一致しようとする」祈りを基に包括した「普遍的なキリスト教一致祈祷週間」を提唱した。
1958 年 “Unité Chrétienne”	“Unité Chrétienne”（フランス、リヨン市）と WCC（世界教会協議会）の信仰職制委員会は、祈祷週間のために資料を協同で準備し始めたこととなった。
1964 年 エルサレム	教皇パウロ6世と総主教アテナゴラス1世が、共にイエスの祈り「すべての人を一つにしてください」(ヨハネ17章)を唱える。
1964 年 第二バチカン公会議	第二バチカン公会議の「エキュメニズム教令」ではエキュメニカルな運動の精神とキリスト教一致祈祷週間の遵守を促進することを強調した。
1966 年 信仰職制委員会、一致推進秘書局	WCC（世界教会協議会）の信仰職制委員会とキリスト教一致推進秘書局（現教皇庁キリスト教一致推進省）は、祈祷週間テキストについて公式な協同の準備を開始した。
1968 年 第1回教会一致祈祷週間	第1回「キリスト教一致祈祷週間」は、「信仰職制」のテキストに基づいて行われ、それはキリスト教一致推進秘書局と協同で準備された。

1975 年 地方教会による一致 祈祷週間冊子	地方教会のエキュメニカル・グループが作成した草案に基づくキリスト教一致祈祷週間の冊子を初めて使用。この年の草案を作成したのはオーストラリアのグループ。
1988 年 マレーシア・キリスト教連盟	マレーシア国内の主要キリスト教教派の連合のマレーシア・キリスト教連盟が大会開会礼拝でキリスト教一致祈祷週間冊子を使用。
1994 年 YMCAとYWCA	YMCA と YWCA が協力して 1996 年キリスト教一致祈祷週間テキストを作成。
2004 年 キリスト教一致祈祷週間冊子	以後、キリスト教一致祈祷週間の冊子を、信仰職制委員会(WCC)と教皇庁キリスト教一致推進評議会(カトリック)が同一の体裁で協同制作・出版することが合意された。
2008 年 100 周年	キリスト教一致祈祷週間開始 100 周年(教会一致のための八日間の祈りが 1908 年に初めて行われた)。
2017 年 宗教改革 500 周年	宗教改革 500 周年にあたり、ドイツの教会が 2017 年キリスト教一致祈祷週間冊子の草案を作成。
2025 年 第 1 回公会議 1700 周年	325 年にコンスタンチノープル近郊のニケアで開催された、第 1 回の公会議の 1700 周年を記念し、イタリア北部のボーゼ共同体の兄弟姉妹たちが資料を作成。

<お願い>

この種の出版や今後の共働を推進するために、全国のキリスト者の皆様のご理解とご支援を心から期待しております。合同祈祷会の献金の一部、あるいは有志の献金を多少なりともお送りくれば、事務局の活動の大きな励ましと支えになります。ご協力をお願い申し上げます。

日本キリスト教協議会

169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-24

TEL 03-6302-1919 FAX 03-6302-1920

郵便振替 00180-4-75788 『日本キリスト教協議会』

カトリック中央協議会

135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館内

TEL 03-5632-4445 FAX 03-5632-4465

郵便振替 00130-6-36546 『宗教法入カトリック中央協議会一般会計口』

(通信欄に「キリスト教一致祈祷週間」と明記してください)

2025年キリスト教一致祈祷週間 献金リスト（敬称略）

〈カトリック中央協議会扱い〉

（2024年11月～2025年9月）

青森市キリスト教協議会
アントメントのフランシスコ会
アントメントのフランシスコ女子修道会
イエズス会無原罪聖母修道院（黙想）
大阪聖ヨゼフ宣教修道女会
沖縄キリスト教協議会
お告げのフランシスコ姉妹会
カトリック（横浜）金沢教会
カトリック岩国教会
カトリック鹿児島司教区
カトリック北浦和教会
カトリック北上教会
カトリック麹町教会（聖イグナチオ教会）
カトリック師イエズス修道女会
カトリック長府教会
カトリック道後教会
カトリック遠野教会
カトリック徳山教会
カトリック長崎大司教区エキュメニズム・
諸宗教委員会
カトリック新潟地区
カトリック萩教会
カトリック本所教会
カトリック松江教会
カトリック松戸教会
カトリック門司教会
カトリック茂原教会
カトリック雪ノ下教会
坂出丸亀地区キリスト教一致委員会
札幌朝祷会
サレジアン・スターズ管区本部
サレジアン・スターズ
聖マリアマザレロ修道院
サレジアン・スターズ調布聖ヨゼフ修道院
サレジアン・スターズ扶助者
聖マリア修道院
サレジアン・スターズ山中修道院
シトーニア須須の聖母修道院
姉妹教会交流会
（日本ホーリネス教団由本教会・日本キリスト教団永山教会・カトリック高幡教会）
殉教者聖ガオルギオのフランシスコ修道会
純心聖母会鹿児島修道院
ショファイユの幼きイエズス修道会
ショファイユの幼きイエズス修道会
大阪信愛修道院
真命山・諸宗教対話センター
聖クララ会修道院
聖パウロ修道会
聖パウロ女子修道会
聖靈奉仕布教修道女会

天使の聖母宣教修道女会
十勝カルメル修道院
長崎キリスト教一致礼拝
奈良南朝祷会
新潟キリスト教連合会
西日本靈性センター
福音史家聖ヨハネ布教修道会
福音の光修道会
福岡キリスト教一致祈祷会
藤沢市内キリスト教連絡会
フランシスコ会・聖アントニオ修道院
ベニニア修道女会
ベリス・メルセス宣教修道女会
マリアの宣教者フランシスコ修道会
種子島修道院
マリアの宣教者フランシスコ修道会
マリアの宣教者フランシスコ修道会
東京第二・第三修道院
聖心の布教師姉妹会本部
無原罪の聖母宣教女会
レデントール宣教修道院長崎修道院
レデントール宣教修道女会
日本キリスト教団聖ヶ丘教会・
カトリック渋谷教会一致祈祷会
伊藤全
井上庸子
大泉由美子
大塚勝洋
落合一美
五月女秀子
近藤裕子
佐久間明美
佐藤悦朗
高野明美
高橋文子
竹内久枝
田中智子
寺濱康子
前田トシ子
鈴木崇代
匿名3名

〈日本キリスト教協議会扱い〉

（2024年10月～2025年9月）

青森市キリスト教協議会
一致祈祷会
（カトリック和泉教会・日本基督教団 いずみ教会）
一致祈祷東京集会
キリスト教一致祈祷週間合同礼拝 市川集会
坂出・丸亀地区キリスト教一致委員会
三条市キリスト教一致祈祷会
姉妹教会交流会献金
（日本ホーリス教団 由木キリスト教会、日本基督教団 永山教会、カトリック高幡教会）
西武地区キリスト教教会連合
日本基督教団 高松教会
日本基督教団 長崎教会
広島市キリスト教教会連盟
福岡キリスト教一致祈祷会
茂原祈りの集い
盛岡 NCC
山梨県教会一致懇談会
外山誠
細井めぐみ

